No. 130

令和3年9月1日発行

尼保だより

発行者
尼崎市保護司会
尼崎市北城内48-2
TEL 6489-3138
編集機関紙部会
印刷三文社

稲村市長と新役員

第71回社明運動副題 犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ

”社会を明るくする運動”に寄せて

推進委員会委員長
尼崎市長
稲村和美

犯罪や非行のない明るい社会を築くために、全国的に展開されている”社会を明るくする運動”も今年で七十一回目を迎えました。

日頃から、本市の更生保護活動の推進にご尽力いただいております関係各位の皆様に深く敬意を表します。

また、皆様には新型コロナウイルス感染拡大防止に多大なるご協力をいただき心から感謝申し上げます。本年度も、同運動の規模を縮小しての実施となりますが、「犯罪や非行を防止し、安全で安心して暮らすことのできる明るい地域社会を築くこと」「犯罪や非行をした人が再び犯罪や非行をしないように、その立ち直りを支えること」の二つを行動目標として取り組んでまいります。

犯罪や非行をした人の立ち直りには、地域にお住いの皆様をはじめ、事業者や関係機関、行政が連携した地域社会での見守りや支えが必要不可欠です。

本市では、適切な支援につなげることで、犯罪や非行を未然に防止し、立ち直りを支える社会の実現に向け、地方再犯防止推進計画を包含する第四期「あまがさきし地域福祉計画」の策定を進めております。

今後とも「犯罪や非行のない明るい社会」の実現に向け、皆様方のより一層のご支援とご協力をよろしくお願いします。

新会長就任のご挨拶と重点課題

尼崎市保護司会
会長
正岡康子

令和三年五月十二日、尼崎市保護司会総会は昨年度に続き新型コロナウイルス感染拡大のため、残念ながら書面表決となりました。本来ならば皆様にご挨拶をした上で信任を頂く予定でしたが、書面による承認にて会長を拝命致しました。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

翌日から新執行部が活動を開始しています。会長を支える執行部メンバーは、保護司会での経験も豊富で、それぞれ広いネットワークと得意分野を持っています。執行部メンバーと保護司会の全会員、そして外部関係諸団体とのコミュニケーションこそが私の重要な仕事と考え、日常的に様々な分野での情報交換を始めています。

六月四日に、尼崎市福祉課からの呼び掛けのもと、神戸保護観察所からご出席を頂き、「保護観察における関係他機関との連携の可能性について」の第一回勉強会を開きました。関連して会員へのアンケート調査も実施しました。これまでに担当したケースで他機関と連携した経験が多数寄せられました。結果は会員にフィードバックしています。六月二十一日には更生保護サポートセンターを活動拠点とする更生保護関連五団体と「連絡会議」を開催し、意見交換を行いました。

また喫緊の課題を「保護司候補者の安定的確保」と捉え、以下の三つのテーマに取り組む所存です。

①保護司が不足している現状に関して、先ずは現役保護司の理解を深める。

②現在の保護司会の行事・活動を見直して、スリム化を図り、会員の負担を軽減する。

③保護観察対象者との面接に関して、工夫や取り組みを共有し、新人保護司を支援する。

皆様のご理解・ご協力をお願い致します。

今年度も〝社会を明るくする運動〟はコロナ禍の影響により非接触型の縮小版となっています。そのような中でも地域の皆様のご協力により、社明標語パネルは昨年とほぼ同じ千四百枚余の協賛を頂きました。ご協力に感謝申し上げます。尼崎市内のあちらこちらでパネルを目にし、私達保護司も元気をもらっています。大きな社明集会は開けませんでしたが、重点事業の一つ、市内各所でのミニ集会は随時開催しています。地域の皆様に、更生保護や保護司の活動を知って頂く絶好の機会であると感じています。

これまで先輩保護司が築き上げられた尼崎市保護司会の伝統を大切にしつつ、様々な意見に耳を傾け、充実感が得られる保護司活動を目指します。今後とも、ご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

第七十一回〝社会を明るくする運動〟に寄せて

神戸保護観察所
所長
小林孝幸

尼崎市保護司会の皆様及び関係機関・団体の皆様には、平素から更生保護の諸活動に格別の御理解をいただき、また、多大な御尽力を賜っております。この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

令和三年、〝社会を明るくする運動〟（以下「社明運動」と記載）は第七十一回を迎えました。社明運動は、戦後の荒廃した社会の中で、街にあふれる非行少年に憂えた東京・銀座の商店街の有志により開催された「銀座フェアー」が起源とされ、昭和二十六年から全国的に展開されるようになりました。様々な立場にある人々が、「犯罪や非行の防止」と「罪を犯した人たちの立ち直り」について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせて、犯罪や非行のない安全で安心な明るい社会を築こうという運動であり、市民参加型の運動であることに特徴があります。全国的には今年で二十九回目となる小・中学生を対象とした作文コンテストが有名ですが、このほかにも、パレード、ポスター展、パネル展、標語コンテスト、公開ケース研究会、講演会、住民集会、弁論大会、スポーツ大会等、

地域事情に応じた特色ある活動が各地で展開されます。最近はインターネットを活用した情報発信も試みられています。

私事ですが、私の趣味は鉄道旅行です。気の向くままに列車に揺られて各地を巡っていると、思いがけないところで社明運動の啓発活動に遭遇します。「本州最南端の駅」と彫られた石碑の横ではためく幟旗、海辺を走るローカル線の駅の掲示板に貼られたポスター、山間の秘境駅の待合室に掲出されていたパネル等々。予期せぬ出会いを通じて、社明運動が長い歴史を経て全国津々浦々まで浸透していることを実感します。

一方、昭和・平成から令和の時代になり、家庭や地域を取り巻く環境は大きく変化し、立場の弱い人ほど孤立化する傾向があります。また、いじめや虐待、ひきこもり、SNS利用による犯罪被害、大麻の乱用など、青少年をめぐる問題も多様化・深刻化しています。このような時代にこそ、問題を抱えた人の孤立化を防ぎ、また、やり直そうとする人を見守り支える地域社会を醸成していくことが重要であり、社明運動の意義はますます大きくなっています。

昨年来、新型コロナウイルス感染症の問題で、社明運動は規模を縮小せざるを得ない状況が続いていますが、「誰もがやり直して輝ける、誰一人取り残さない」社会の実現を目指して、運動の趣旨が世代を超えて引き継がれていくことを願っています。

コロナ禍における第七十一回 ”社会を明るくする運動“

第七十一回”社会を明るくする運動“は七月一日から強化月間です。

新型コロナウイルス感染拡大の第三波による緊急事態宣言が、四月二十五日から六月二十日迄発令され、その後も非常に厳しい制限まん延防止期間の中で、四月から中央集会などを実施する為の計画案を、役員一同で協議し検討してきました。

感染拡大防止の観点から、換気の悪い所、密閉空間、至近距離での集会を避ける為、五月度の広報部会で協議した結果、昨年と同様、中止としました。

感染拡大に影響のない次の事項に取り組むことにしました。

①社明のぼり旗の設置（市内私鉄・JRの各駅前広場・公共施設）

②社明運動の啓発用ティッシュの配布（郵便局五十七局・JA八店舗・コープ七店舗・ローソン二十店舗・公共施設）

③社会を明るくする運動作文コンテストの依頼（小学校六校・中学校六校・高等学校六校）

④ポスターの掲示（コミュニティ掲示板・公共施設）

⑤エフエムあまがさき「みんなの尼崎情報局」で発信（保護司活動の紹介、作文の朗読、更生保護関係団体の活動紹介）

昨年同様、コロナ禍の中、”社会を明るくする運動“が計画通りにできなかった事が残念ですが、次回は計画通りに実施できる事を切望します。

ご協力を頂きました各位、各施設の方々に心から感謝申し上げます。

社明運動「標語パネル」

第71回
社会を明るくする運動
主唱・法務省
犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ
「ありがとう」その一言で生まれる笑顔
主催
協賛

温かいご支援に心からお礼申し上げます。

このたびは”社会を明るくする運動“の標語パネル協賛につきまして地域の団体や自治会、企業、個人の方々から協賛者としてご協力いただきありがとうございました。

この「社明標語パネル」は市内全域に掲示され、協賛金の一部は本運動の推進費として使用されています。

紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

第71回社明運動「標語パネル」尼崎市全域に　一、四二九枚掲示

栄誉おめでとうございます

瑞宝双光章

瑞宝双光章受章

大庄分会　東　洋

この度、新型コロナウイルスで深刻な状況下であるにも関わらず、令和三年春の叙勲に際し思いもよらぬ内示の報を頂き、受章の栄誉を拝受する運びとなり、身に余る思いと面映ゆさで戸惑いの域を拭えずにいます。

本受章に関しましては、これまで数々のご指導とご支援・示唆を頂いた歴代の主任観察官、諸先輩保護司、現役保護司の皆様方による賜と深く感謝申し上げると共に、家族の支えによるものと痛感しております。

これまでに多くの保護観察対象者と接してきましたが、顧みると数多のことが思い出されます。一例を挙げますと、三十歳半ばの女性対象者の仮釈放に際して引受人である母親と矯正施設まで自家用車で出迎えに行き、その帰路に休憩のため立ち寄ったS・Aで軽く飲み物をと本人に問い掛けたところ、まだ寒さが残る三月にも関わらず、アイスクリームパフェを注文し、ひとくち口にしたところで、彼女の目が突然赤くなり涙が溢れ出てきました。一年数ヶ月あまり、施設内での生活では当然口にすることが出来なかった甘味と感触で、仮釈放になったことを実感したと話してくれ、母親と私共々「今日の流した涙と仮釈放となった気持ちを忘れないように」と説示したことがありました。

これから後、健康を含め自己管理に十分留意しつつ、本受章に恥じぬようこれまで同様に更生保護に関し地道な活動を続けると共に、微力ではありますが皆様方のご芳情に報いたく、更なるご厚誼の程お願い申し上げます。

令和３年度　尼崎市保護司会総会

令和三年度の尼崎市保護司会総会もコロナ禍により、昨年度と同様、書面表決での採決となりました。昨年度の事業報告や収支決算報告、今年度の事業計画案や収支予算案、令和三・四年度尼崎市保護司会役員という議案は、書面表決という形で全て承認・可決されました。返信された表決用のハガキの集計では、規約で定められた数を十分に上回り、また、全ての議案についても賛成が投じられました。今年度は役員改選の年度にもあたりますので、新役員を紹介いたします。

重点目標

一、犯罪予防と再犯防止への取り組み
二、新任保護司の発掘による保護司充足率の改善と処遇能力の向上
三、更生保護サポートセンター機能の充実と有効活用
四、更生保護関係団体等との連携の推進
五、地方公共団体、教育機関などとの連携強化

令和三・四年度　本部新役員

会　長　正岡　康子
副会長　小寺　信吾、東　洋
専務理事　寺本　昭子、森田孝一郎
常務理事　吉野　和康、井村　渡、岡田　齊
山中登喜子、瀬戸冨士男、前田　昌昭
監　事　下境田耕治、大谷　治代、塚田　晃

そのだ版

『勝者』より『勇者』たれ

浦田 俊弘

私は趣味でランとスイムを長く続けています。もともとラグビーを三十才まで十五年間していて、引退後も健康維持を目的に運動習慣を継続してきたのです。コツコツと合間の時間を見つけては、泳ぎに行ったり走りに行ったり、モチベーションを上げるために大阪マラソンや神戸マラソンにも出場しました。いつもサブ４（四時間切り）が目標です。

しかし、世間での健康ブーム、マラソンブームによって大会への参加希望者が激増し、マラソン大会は狭き門となってしまい、なかなか抽選に受かりません。そこで私は自転車を追加しトライアスロンに挑戦することにしました。後にトライアスロンも愛好者が案外多く、思った大会に必ず出場できるとは限らないと知ることになるのですが…。

兎も角トライアスロンを始めて今年で八年。トライアスロンも距離別にカテゴリーが分かれていて、一番長い部類にアイアンマンレースというのがあります。それはスイム３・８㎞、バイク１８０・２㎞、ラン４２・２㎞を続けざまに勿論一人で完走するのですけど、ほぼ半日かかります。こんな大会の存在を知った時、世には過酷なことを好きこのむ変人がいるものだな、と思いました。

なのに三年目には自分も初チャレンジしていました。制限時間が迫るなか、酷く痛む両足を引き摺りながらどうしてこんな事にチャレンジしようと思ったんだろうとか、もう十分に頑張ったんだからここでリタイアしようとか、挫けそうになるのを必死でこらえてゴールに辿り着きました。すると先にゴールした仲間が待っていてくれて大喜びでゴールに迎え入れてくれました。感動で涙が溢れ出てきました。滅茶苦茶きつかったけれどそれに見合うだけの感動と幸せを貰えたと思います。その後もチャレンジし続け、毎年何とかゴールできています。

ラグビーをしていた時には優勝できるのは一チームだけです。いつもそこには勝者と敗者がありました。しかし今は大会に勝者は居ても敗者は存在しないのです。みんな自分に対し勇敢に挑戦し続けているから。ゴールできてもできなくても、その挑戦が続く限り敗者でなく『勇者』なのです。そして仲間やボランティア、沿道の人達も心から応援します。挑戦し続ける姿、生きる姿に人は心を揺さぶられ、応援せずにはいられなくなるのでしょう。

そして『勇者』は又、しんどい思いを越えたからこそ、得られた優しさも持っています。人に対して優しくなれる。この『勇者』の魂の種を挫けそうになっている人に蒔き続け、『勇者』仲間を増やしたいと思っています。（勿論ラグビーにも勇者は存在します！）

五島長崎国際トライアスロン大会
2019.6.23

おだ版

「あまらぶ」で「おだらぶ」

吉田 淳史

昭和四十一年一月に左門殿の今福で生まれました。八幡幼稚園～杭瀬小学校～若草中学校～尼崎小田高校と小田地区で育ちました。

結婚を機に杭瀬団地へ移り住み、十五年程前には、小田地区での永住を決め、現在の住まいである潮江で暮らしています。

自分で言うのもなんですが、「おだらぶ」（小田が好き）な生粋のおだっこで、名刺には「おだらぶ部長」と表記しています。

なぜ、小田が好きなのか？

若い頃は答えを見つけることができませんでしたが、十年程前、漠然としていた思いが、明確な答えに変わりました。その答えとは「子どもの頃の楽しい思い出」です。

私が生まれ育った今福は、まさに下町で、地域には面倒見の良い大人、今では珍しい他人の子どもも遠慮なく叱ってくれる大人がたくさんいました。

そうした大人たちがソフトボールを教えてくれたり、写生会やハイキング、プール、スケートなどに連れて行ってくれたりしました。

子どもの頃の楽しかった思い出が、今でも私の脳裏に強く焼き付いており、そのことが「おだらぶ」に繋がっています。

現在、私は大好きな小田で地域づくりの仕

事をしています。私の子どもの頃と今とでは状況が違いますが、子どもたちに様々な学びや体験の場を設け、郷土愛の醸成、つまり「おだらぶ」な子どもが増えることを目指し、地域の方々や事業者の皆さんと連携しながら、子ども向けの取組に力を注いでいます。

今年の夏休みも「小田こども学び＆体験大特集！」と題し、地域の大人がプロデュースした多くの学びや体験の機会を提供しました。

尼崎工業高校や尼崎小田高校の生徒、関西国際大学の学生、本市のスポーツ振興事業団・文化振興財団・社会福祉協議会小田支部に加え、あまがさきキューズモール、ホテルヴィスキオ尼崎、丸一興業、ニナクルといった事業者のほか、宮っ子クラブ、元プロサッカー選手の堂安憂さんなどが、子どもたちが笑顔になるメニューを提供してくれました。

今年一月に現役を引退し、子どもたちにサッカーを教えることで、生まれ育った小田、ひいては尼崎に恩返しをしたいとの思いを持つ堂安憂さん。東京オリンピック男子サッカー日本代表の10番を背負った堂安律選手の実兄です。二人とは何度かお会いしましたが、二人とも「あまらぶ」で「おだらぶ」な好青年です。

サッカー教室では、小田北中学校の生徒がサポートしてくれました。

プロ選手として活躍する律さん。指導者を目指す憂さん。夢に向かってチャレンジする「おだらぶ」な二人をこれからも応援したいと思います。「ガンバレ！堂安兄弟」。

たちばな版

慣れということ

白井和彦

昨年から全世界を巻き込んでいる「新型コロナ」が、皆さんの生活や活動に大きな影響を与えていると思います。

新型コロナが流行り始めたばかりの時に、あの志村けんさんが亡くなられました。この時のショックは大きく、それこそ国民みんなが驚き嘆き悲しみました。私のような気楽な人間でも、年下の志村さんが亡くなるのだから気をつけなければいけないと周りの友人に注意しまくりました。

今、毎日夕方になると「本日の感染者数は何人で、死者は何人でした」とニュースで報道されています。兵庫県で毎日数十人の死者が出ていても私も淡々とそれを聞いています。

「志村さんショック」時の「緊急事態宣言」発出後は夜の街から人影が消えました。現在も宣言が延長されていますが、夜の人出は多くなるばかりです。ワクチン接種が始まったことも影響しているかもしれませんが。一方、昨年度のインフルエンザ感染者は例年に比べて激減したそうです。つまり、手洗い、うがい、マスクするという昔から言われている予防策を取ればインフルインザは防げるということです。

私はこれまで何人かの対象者との出会いがありました。最近特に考えさせられるのは、本当に「一人ひとりに違う個性があるのだ」という当たり前のことです。昔ながらの固い頭の私などはワンパターンにはめようとする傾向があります。ところがそれでは相手になかなか話が入っていきません。私の「独り相撲」になります。

ある少年は、時間通りにやって来ます。返事もしっかりしています。前回の時からの行動を簡潔に話します。そして例によって私が最後に、「その友人とは会っていないやろな」に、「会っていません」、「単車とかにも乗っていないやろな」にも、「乗っていません」との答え。翌日、車に乗っていた私は、その友人と単車に二人乗りする彼とすれ違いました。皆さん方もこういう経験が一度や二度いやいや多々あるかも知れません。

そこで、私は、人間という動物は周囲に流されやすいのだと私自身を含めて再認識しています。これからも対象者へのアプローチの色々な方法を考えていきたいです。勿論、それは「迎合」ではなくて「毅然とした態度・一貫した方針」を忘れずに取り組むことだと思う今日この頃です。

新任保護司の紹介（令和3年5月）

明るい未来を

小田分会
高谷　浩司

これまで、ＰＴＡ活動、スポーツ活動、教育事業を通じて多くの青少年と関わることが出来ました。その中で、個々に秘められた深い心の部分は中々見えません。何らかの原因により、反社会的行動を繰り返した後、立ち直ろうとする青少年に関わる機会を与えていただき、光栄に思います。緊張感を持って微力ながら地域のため、青少年のために努めていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

社会の一員として

立花分会
秋田　一吉

晴れた朝、六月の風に吹かれていると爽やかな気分になります。デジタル化の進展、経済格差の拡大、気候変動など、令和の日本は大きな変革期にあることを忘れそうになります。現在の課題は沢山ありますが、解決の糸口の一つは、多様性の確保だと言われています。多様なキャリア、個性、価値観を持つ人たちが互いに尊重し、力を合わせて、それぞれの能力が活かせる社会―そんな健全で活力ある社会実現の一端を担えれば幸いです。

共笑為共悩

武庫分会
志紀　正機

大きな失敗をした時、ある先輩僧侶から「また一緒に笑えるよう、一緒に考えて悩んでいこう」と声を掛けて頂きました。一人じゃない、共に歩んでくださる人がいる。とても嬉しく、その一言に救われました。

保護司として、僧侶として、人間として、「共に」という姿勢を大切に、励んでいきたいと思います。

とは言うものの、寺で生まれ、寺で育った世間知らずの未熟者です。何卒宜しくお願い申し上げます。

子どもの人権を守るために

武庫分会
濱田　格子

私は武庫地区子ども会、ＮＰＯ法人子どものみらい尼崎、コミュニティルーム武庫運営委員会の活動を通じて、子どもたちの幸せを我が事として考え、行動する人の輪を広げたいと思っています。身近な保護司の方々の活動から、更生保護は子どもの人権を守ることに繋がると気づきました。

未熟な私ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

保護司の先輩

園田分会
金子　智子

保護司を引き受けて欲しいと打診された時、ある知人のことを思い出しました。その方は生前保護司をされていて、大変な状況でも何とかして対象者の力になろうとされていた人格者で、とても人望が厚い方でした。その人ですら大変だと表現していたこの仕事を私にできるのか随分悩みましたが、できる範囲で精一杯すればいいのではと思い直し、お引き受けすることにしました。色々至らぬ点が多いですが、どうぞよろしくお願いいたします。

「尼保だより」を尼崎市のホームページで掲載予定。

私たちの生活を豊かに便利にしてくれるインターネットは多くの人々にとって、なくてはならないものになっています。今後、「尼保だより」を尼崎市のホームページでも見ることができるようになります。多くの皆さんに見ていただき、保護司の活動に対する理解や協力等が得られればと考えております。そして、過去に罪を犯した人たちの立ち直りを助け再び犯罪や非行に陥らないよう予防することにつながっていくと期待しております。「尼保だより」を手にされていない皆さんにもお声がけ頂ければと思います。

事務局より

イベント告知板

1・10　尼保だより No.129号発刊
10　新年互礼会（中止）
2・　理事研修会・理事会（中止）
　　新任保護司特別研修（応用編）（延期）
　　県保護司会代表者等連絡協議会（延期）
　　尼崎中ロータリークラブ感謝状贈呈式（延期）
　　保護司特別研修（中止）
3・16　県保護司会代表者等連絡協議会
17　新任保護司特別研修（応用編）
19　尼崎中ロータリークラブ感謝状贈呈式
4・　理事会（書面表決）
21　社会貢献活動（武庫川河川敷清掃）
5・　尼崎市保護司会総会（書面表決）
　　社明県推進委員会（書面表決）
　　市社明推進委員会（書面表決）
6・　阪神七市正副会長会議（書面表決）
7・　"社会を明るくする運動" 尼崎市中央集会・各地区集会（中止）
27　保護司特別研修（新会長及び会計事務担当者研修）
28　尼崎市長一日保護司会長委嘱式・意見交換会（市長室）

おめでとうございます

令和三年春
瑞宝双光章
大庄分会　東　洋

人事報

○新任保護司（令和3・5・18付）
（小田）髙谷　浩司
（立花）秋田　一吉
（武庫）志紀　正機
（武庫）濱田　格子
（園田）金子　智子

ご苦労様でした

○任期満了保護司（満齢退任令和3・5・17付）
（武庫）石井　麻子
○任期満了保護司（令和3・5・17付）
（立花）戸田　勝子

ご逝去
（名誉会員）青井　長閑（令和2・10）
（名誉会員）佐竹　正江（令和3・3・18）

尼崎市保護観察事件係属状況

－令和３年７月１日現在－

保護司数		１６６名
保護観察事件	計	１５８件
１号（保護観察処分少年）		８８
２号（少年院仮退院者）		１１
３号（仮釈放者）		１９
４号（保護観察付執行猶予者）		４０
環境調整事件	計	１６２件
少年院在院者		１４
刑務所在監者		１４８

着任観察官のご挨拶

保護観察官
伊藤　育代

令和三年四月から、立花・園田分会を担当させていただいております。尼崎での勤務は初めてですが、人情に厚く活気あふれる尼崎の皆様方の一員になれましたことを、心より光栄に感じております。微力ながら精一杯努力する所存ですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

保護観察官
松村　卓磨

四月から、尼崎地区武庫分会を担当している、保護観察官の松村卓磨です。
微力ながら、官民協働の処遇が、より効果を発揮する方策を模索すべく精進して参りますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。
尼崎地区保護司会の益々のご発展と先生方のご健勝、ご活躍を祈念申し上げます。

あとがき

今号もコロナ禍のため、「尼保だより」は紙面数を減らしての発行となりました。私たち保護司の活動を支えてくださる皆様方の思いや支援内容等について、紹介ができなかったことを反省しております。今後も、更生保護協会をはじめ、更生保護女性会、ＢＢＳ会、協力雇用主等の更生保護関係者とより一層連携を深め、協力体制を目指した紙面づくりに取り組んでいきたいと思います。

機関紙部長　明坂　正春